

議会活動報告

一般質問より

3月議会(令和2年)

道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川の改築について

道立子どもの国にある「ネイパル砂川」は昭和51年に建設され、平成28年には耐用年数を超える老朽化が著しいです。

「ネイパル砂川」は年間13,000人の宿泊客が訪れる砂川市にとって大切な施設で、是非、早期の改築を望むところです。

市長は「空知地方総合開発期成会を通じてこれまでも要望をしているが、子どもの国に新しい施設を作るなど、北海道の力の入れ方が違ってきたと思っているので、何とか見える形で改築になるよう頑張っていきたい」と答弁しています。

砂川高校の出願状況について

砂川高校の令和2年の出願状況は65名で定員120名を大きく下回りました。このままでは1年、2年とも2学級になってしまいます。

先生の加配もある単位制をしっかりと維持し、砂川市唯一の高校を残すため市長の決意を聞きました。

市長は「私の母校ですから思い入れはたくさんあります。これからは、砂川高校をどうするんだとの気運になり、市民全体で『何とか砂川高校を残そう!』という意識のもと、市長と一緒に外に向かって発信していただきたい」と話しました。

6月議会(令和2年)

公立高等学校配置計画案について

道教委の計画案によると、来年度は滝川高校が1学級削減になりますが、来年の中学校卒業生も空知北学区では「65人減」になります。砂川高校は相当な「戦略」を持って3学級維持に頑張ってほしいと発言しました。

小中学校適正配置基本計画について

市教委は『義務教育学校設置の場合の小学校建設は砂川中学校隣接地に建設する計画』と言っています。

仮に小学校5校が統合する事になったとしても、砂川中学校の敷地内に新設小学校、体育館、プール、グラウンドが入るとは思えません。更に統合時の砂川中学校は建設から32年が経過し建替えを考える時期になります。

今後の将来ある砂川の子ども達が素晴らしい環境の中で義務教育を受けられることを切に望んでいます。

そのためには中途半端な学校づくりだけはしないでほしいと思います。

コロナ禍における市立病院の影響について

コロナ禍において市立病院に大きな影響が出ています。国に補償をしっかりと求めるよう言いました。

- 「前年と比べた患者数(3月～5月)」について、入院患者は約6千人、外来患者は約1万2千人の減少。
- 「前年と比べた入院・外来収益(3月～4月)」について、入院・外来収益は約2億2千万円の減収。

9月議会(令和2年)

市立病院の総合診療科について

今年4月に「総合診療科」が設置されました。この科は腹痛や咳、吐き気など複数の症状があり、どの診療科に受診したらよいか分からずの方を診療します。

私の質問に対し、「経験豊富な医師が赴任したことにより外来診療の充実と在宅医療の質向上に取り組んでいます」と答弁がありました。

発熱トリアージ(選別)について

市立病院は発熱トリアージを行うことで、発熱等の症状がある方とない方の受診動線を区別することにより、院内感染の防止及び不安解消に役立つと今後も続けていく方針です。



トリアージの様子(令和2年6月)

コロナ禍の移住・定住の促進について

砂川市はインターネットを利用してリモート移住相談を行うと答いました。私は砂川市の職員採用に社会人枠を取り入れたり市立病院職員の採用を広げることで、優秀な若い人材に移住・定住してもらえば、人口維持につながると話しました。

12月議会(令和2年)

小中学校の適正規模・適正配置について

市教委は10月15日から「市立小中学校適正規模・適正配置の基本方針・基本計画に関わる説明会」を市内11カ所で開催。

小中学校の統廃合については、あおむね理解されたと答えましたが、小中一貫教育については、理解が深まらない状況もあったと答えています。

学校教育に失敗は許されません。特に小中一貫教育の導入については、十分な研究、検証を重ねる必要があると考えます。砂川市はなぜそんなに急ぐのでしょうか。



北光小学校での説明会

トレーニングルームについて

今回考えているトレーニングルームは総合体育館に指導員も付いて健康、体力づくりを主体とした施設とのことで、私は駅前開発の場所に設置することも考えたらどうかと提案しました。

設置の時期は来年から始まる第7期総合計画の早い段階での実現に向けて検討していると答えました。